



# 馬の学校通信

2021.10 vol.83

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 愛知県名古屋市天白区植田本町 3-1105-301 TEL/FAX : 052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : <http://www.horseschool.org>



## 大学院進学

1年ぶりにエッセーを再開します。「ドイツでの研修」まで書きましたが、帰国後は海外で見てきたことを生かすにはどうしたらいいかを考えました。フォーチュンセンターで様々な専門家がチームとして行っているのを知り、自分の専門性を決め勉強する必要があると思いました。当時、治療的乗馬を専門とした先生がいる大学はなく、ドイツで見た子ども農場と理念が似ているプレーパークや、社会教育関係から調べ、手紙を書いたり直接話を伺いに行ったりする中で（まだまだインターネットは普及していませんでした）、教育の中で馬とのかかわりを考えていくのがいいのではと思いました。いろいろな縁のつながりで、奈良教育大学大学院の先生を紹介していただき、何とか院試も突破。晴れて大学院生となりました。

学部生の頃、いかに効率よく単位が取れるかを考え、暇さえあれば牧場に通っていたため、同級生は大学院進学にびっくり。ドイツ語を学び直すために学部の授業を受けに行ったり、障害児教育の授業を受けたり、真面目な大学院生活を送りました。馬と教育を結びつけようとする私に、指導教官は「馬から離れなさい」と言いました。当時は「なぜ??」と思いましたが、広い視野の中で結びつけるためには一旦離れる必要があったのだと、後になってわかりました。また奈良LD研究会と出会い、その後発達障害の子どもたちとかかわるきっかけにもなりました。さらに、机上の空論にならないようにと、在学中に小須田牧場での「ウマキャンプ」を実施。家庭教師をしていた中学生とその友達を牧場に連れて行き、一緒にいろいろな体験をしました。短い時間の中でも子どもたちの成長の様子が見られ、馬の持つ力を教育の中で生かしていけることを実感しました。この実践も含めて、修士論文『乗馬をめぐる教育的考察—「時間と空間の共有」を軸として』をまとめました。この2年間は、多くの方との出逢いの中で、これまでを振り返り、自分と向き合い、今後の生き方を考える、貴重な時間となりました。ただ、修了後に就職して自分のやってみたいことができそうなところはなく、それならば自分で作るしかないと考えました。



## おすすめの本

### 『エイドリアンはぜったいウソをついている』

岩波書店 マーシー・キャンベル 文

エイドリアンはいつもひとりで座っていて、「うちには馬がいるんだよ」と言いふらしている。そんなウソに決まっていると思っていたわたし。自分と違う他者をどう受け入れていくのか、その心の変化が美しい絵と一緒に描かれています。「エイドリアンの心にはきっと世界中のだれよりもきれいな馬がいるのかも。」そんなふうになるようになったわたし。最後には、読者にも見えないものが見えてきます。



## 馬のおもちゃ

### 『シルバニアファミリーのポニー』

シルバニアファミリーにポニーの美容師さんが仲間入り！1年生のころまではシルバニアファミリーに夢中だった娘も、すっかり遊ばなくなり、もう欲しいとも言われませんが・・・。イギリスでは、シルバニアの人形たちが乗れる馬が発売されていたようですが、日本ではコレクション品として高値で取引されています。娘は今やミルキーのたてがみを三つ編みにしたりかわいくアレンジするのに夢中。本物のほうがいよいようです（笑）



## 活動報告

### 馬のお仕事体験 in ぱかぼこひろば(7/18)

5家族の参加で、ぱかぼこひろばの強みが存分に生かされ、大人も子どもも楽しめるプログラムとなりました。



### ミルクィと友達になろう in ファナウステーブル(7/31,8/1)

クラウドファンディングのご縁で参加してくださった方、何度もご参加いただいている方など、14名の参加がありました。ポニー検定5級に挑戦、合格したお友達もいました。



### ミルクィの引き馬体験 in ファナウステーブル(8/7~9)

2歳のお子さん（お母さんと一緒に）から大人の方まで、13名の方にミルクィとのひと時を楽しんでいただきました。



### 馬とのふれあいプログラム in 愛知県森林公園(9/21)

4歳から8歳まで、5名の参加でのんびりと馬との時間を過ごしました。子どもたちの「やってみたい」気持ちの表現が多様で、見ていてとても微笑ましく感じました。



## 事務局移転のお知らせ

今年の5月ごろからずっと考えていたこと。それは北杜市への移住。クラウドファンディングで皆さんに支えていただき、お陰さまでファナウステーブルでのミルクィの生活も落ち着いてきました。しかし、資金が尽きる来年以降のことを考えると、近くに住んでもっとミルクィの活躍の場を広げ、それによって預託料等を賄うのがいいのではと思い始めました。そしていつまで続くのか、見通しの立たないコロナ禍での生活。あちこちへ移動してプログラムを行うこれまでのスタイルを続けていくのは難しいと判断しました。

まずは娘と二人で賃貸に住んで様子を見ようということになり、11月中旬頃に北杜市大泉町に移住できる見通しとなりました。今後、ミルクィフレンズの仲間やプログラムの種類も増やし、ミルクィとともに馬の学校の新たなステージを作っていきたいと思います。

それに伴い、大阪・兵庫・愛知での定期的なプログラムは一旦休止となります。これまでお世話になった六甲山牧場、ぱかぼこひろば、服部緑地乗馬センター、愛知県森林公園乗馬施設、愛知牧場、カズホーストレーニングの皆様、本当にありがとうございます。ただ、これで終わりではなく、今後も機会があれば単発プログラムでコラボ企画ができれば嬉しいです。また、コロナ禍で中止になり、次回開催を楽しみにして下さっていた方には大変申し訳なく思っております。どうかご了承ください。新しい住所は次号にてお知らせいたします。

## 編集後記

まさか北杜市に住むことになるとは・・・ほんの半年前までは考えてもいなかったことです。でもミルクィの状況と収束の目処が立たないコロナ禍のことを考えると、「今しかない！」と思うようになりました。娘はファナウステーブルで親から離れ、お友達と一緒に様々なことにチャレンジすることが増えました。そんな中、悪戦苦闘しつつミルクィとの関係も築きつつあります。そんな娘が「転校してでも、ミルクィの近くに行きたい」と言ったことにも、背中を押されました。さらに夫の理解もありがたいことです。「いつかこんな日が来るのではと思っていた」とのこと（笑）。折しも北杜市は移住ブームで賃貸は争奪戦状態。今年度中に見つかるかと心配しましたが、タイミングよく第一希望の賃貸をゲット！幸先の良いスタートになりました。期待も不安もありますが、清里には心強い仲間がいてくれます。「やってみないとわからない」ことはやってみるしかない、可能性のあることには挑戦したいと思います。（峯崎友香理）